

# 磐城時報

三夕 日刊  
編輯 磐城時報社  
印刷 磐城時報社  
發行 磐城時報社  
社址 磐城郡平町  
電話 一四四  
廣告料 一行十文字五錢  
印刷料 一行十文字五錢  
代印 一行十文字五錢  
代刷 一行十文字五錢  
代送 一行十文字五錢  
代配 一行十文字五錢  
代貯 一行十文字五錢  
代貯 一行十文字五錢

## 旗上げの準備整つた

### 石城の無産黨

#### 九月の縣議戦に候補を推す 政、憲兩派の大脅威

常警の炭礦労働者を中心とする位は樂々當選せしめ得るから斯く無産黨の組織は最近漸く具体化しては政友も憲政も既成政化した模様で磐城や入山炭礦等黨は大なる脅威を免れまいといふに於ける坑夫組合は過般の争議と組合の勢力を會社に認めさせ、てから減切り團結の力を増し近く麻生久氏等を迎へて日勞黨磐城支部發會式を舉ぐる準備成り一方飯野村を中心とし

#### 小作階級を糾合し左傾

派の労働農民黨支部組織準備に着手する者あるなど無産黨組織の氣運に向つて來た殊に日合では品質の向上と増收を期す勞黨支部は現在磐城、入山、古るため各方面から技術員を招ぎ河、小田、三井等各炭礦に二千手入れ其他につき講習を受けて餘の組合員を有し最も力あり今秋九月の縣議選舉に際しては剪定整枝等は既に修了し目下施肥の準備中として候補一名を擁立するといはれてゐる、若し愈々候補者が出馬したならば過般警察争議の例に見るも應援團は一齊に起つて「兄弟よ無産者」の爲に團結せよと握り飯をかじりながら

#### 晝夜奮闘 するは想像に難くない、宣傳や言論戦は最も得意とする所であり磐城には二萬の炭礦労働者があつて若し一豫算審議の村會を開き協議の結果致團結するならば縣議員一名果三萬圓を以て小學校改築をな

を以て教員給及び盲生教育の内容改善に必要な経費に充當する事になつた。

## 磐中校長挨拶

### 新任 縣立磐城中學校校長唐土齋治氏は

昨日午前八時半同校講堂に於て全校生徒に就任の挨拶をなした。

#### 家庭衛生講習 磐城

村家庭衛生講習會は昨日、三日の兩日磐城尋常高等小學校に於て催はしたが聴講者約五十名に達し盛會であつた。

#### 小野新町間 一列車休止

平、小野新町間の貨物は最近の不況で非常に減少したので三月一日から三十一日まで第五十號並に五十一號の貨車は運轉を中止する事になつた。

#### 不當な決算が問題となり 村長、収入役辭職

磐崎村では去る二月十一日大正十四年度決算の村會を開いたが支出部に杜撰粗漏の弊あるを發見したので村會議員連が調査した處、之は村長織内司馬太郎、収入役吉田作平の兩氏が相通じなせざるもの、如く、村議連から同地に働いてゐたが今度郷に攻撃の矢を向けられ今日に至るまで新湯市付舟町の實家に行きた責任を負ふて辭職と決した。後いのだが旅費がないから貸して貰ひ度いと三日平警察署人相談所に願ひ出たが、却つて不心得を論された。

#### 家に歸りたいが 旅費がない

當時内郷村宮城炭礦坑夫永井四郎次(三三)は大正十五年二月に同地に働いてゐたが今度郷に攻撃の矢を向けられ今日に至るまで新湯市付舟町の實家に行きた責任を負ふて辭職と決した。後いのだが旅費がないから貸して貰ひ度いと三日平警察署人相談所に願ひ出たが、却つて不心得を論された。

#### 泉村で 蠶業技術員

任村長選舉村會は近く召集する事であるといふが大体に於て現任村會議員酒井秀吉氏に決定する心得を論された。

## 雇人を十五年間 欺いてゐた主人

### 貯金をした金さへも 横領して返へさぬ

江名町大字江名齋藤左京三(三〇)齋甲齋虎丸一行は愈々來る五日は、行末は相當な店を出してや平劇場に開演する事になつたが、といふ條件を信じ十五歳の時虎丸の平町に開演する事は全くから大正十五年二月まで十五年珍らしいとして今から一般の期問江名町大字江名酒屋石川吉松待を受けてゐるから當日は大受方奉公をしてゐたが、店を出けに受けるであらうと言はれては呉れる處か、雪の日に樽拾ひ、虎丸の得意の長講二席をひをして貯めた金四十五圓の郵演する外

#### 活動寫眞

愛國婦人會福島支部平時救濟事業資金募集活動寫眞會は七日、八日兩日午後一時、午後六時の二回に亘り聚樂館に催はす等で映画は大正天皇御大葬儀其他數種である。

#### 永戸の火事

永戸村大字仁江竹夫榎義廣方から二日午前一時頃發火し居宅二棟物置二棟を全焼したが損害四千圓であつた。

#### 鈴木氏の葬儀

平連 輸株式會社鈴木雄次氏の葬儀は平町字鍛冶町日雇業先崎ミイ二三日午後二時自宅出棺長橋町性原寺で執行されたが地方名士多數會葬し盛賑を極めた。

#### 咬まれた少女

平町字鍛冶町日雇業先崎ミイ二女フミ(八ツ)は一日午後六時半頃隣家島綱夫方入口で歸宅の途中鎌田町青木龜吉方飼犬に顔面を咬まれた。

#### 虎丸一行 愈々五日開演

絶對に日延なし 本邦浪界の權威者であり目下人氣の絶頂にあると言はれてゐる

ひの服装をする所から三人組と云はれてゐた壽美子、照子桂子の三人であつた。かうした三つの運命は果して如何に弄ばれ、如何に變つて行つたであらうか。

壽美子が心の愛人たる大學教授前川俊一と相知つたのは大阪から東京への汽車中であつた、偶然が結んだ二人は次第に親しさを増して行つた。そうしてそれがはつきり戀と意識されに至つて壽美子は前川から意外な言葉を聞かねばならなかつた。……前川にはあなたを愛する資格はあつた、此儘進めば互に救ふ事の出来ない罪を犯さねばなりません。かうした苦しい言葉を殘した前川は壽美子の寫眞を抱いて故郷北海道へ歸つた、空ろの心を持つて父の家へ歸つた壽美子は父に恩顧ある林銀行の頭取の息子健一から結婚を申込み父の切なる頼みを断りかねて戀の亡骸たる己が身を父の犠牲となし終つた、盲目的に壽美子を愛する健一は唯彼女の奴隷であつた、そして彼女はあつた、委せて贅澤の限りを盡した。

照子には藤井信一郎と云ふ外交官の許嫁があつた。二人は藤木が官命で洋行する前日井の頭公園の森林中で相許したのであつた。藤木は其後佛國に滞在申病を得て死んだが同じ佛國にゐた望月圭三は歸望して藤木から託された日記を届けた。彼が照子に對する同情はやがて戀となり、彼女は自分か處女でないことを心苦し思ひ乍ら望月と結婚して新婚旅行に出た。第一夜を沼津に迎えた二人は海濱のそぞろ歩きに互の過去を話し合つたがその時照子が藤木の爲に處女でない事を知つた望月は旅行を中止して東京へ歸つた。(つづく)

#### 映畫界

受難華 (平館)

#### 虎丸一行

絶對に日延なし

#### 咬まれた少女

平町字鍛冶町日雇業先崎ミイ二女フミ(八ツ)は一日午後六時半頃隣家島綱夫方入口で歸宅の途中鎌田町青木龜吉方飼犬に顔面を咬まれた。

#### 永戸の火事

永戸村大字仁江竹夫榎義廣方から二日午前一時頃發火し居宅二棟物置二棟を全焼したが損害四千圓であつた。

